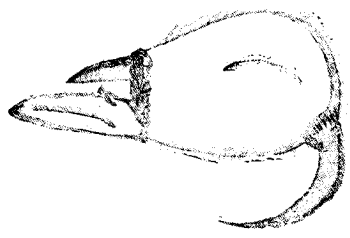

第3圖　ダルマスの上顎

下にたゝきつけた。併し彼は落ちてからもなほ僕に對する抵抗の姿勢を取つてゐた。彼は鬚をなめながらまるで英雄そのものであつた。づきんづきんと痛むのでふと見ると手先は最早染血にまみれてゐた。時計は僕をあざけり笑ふかの様に六時を打つた。全身は汗びつしよりであつた。多分彼は死を裝ふ本能の術を用ひたのだ。その後三十分間身を切る様に痛んだが，それからは大分痛みも止つた。蜂にさゝれた痛さより遙かに手ごたへがあつた。それで三日間の間は手がはれて鉛筆も自由にあつかふ事が不可能であつた。今あの日の事を考へると身のぞおつとするのを覺え恥かしさを感じてならない。

（昭和十三年十二月七日）

## 蜾蠃二題

**蜾蠃一種の産卵數**　蜾蠃の產卵に就ては，筆者が一昨年觀察せるものを昨年の本誌 No. 3, No. 1, に記して置いた。昨年も同種のものを飼育中5月22日午前7時頃27個產卵してあるのを觀た。翌23日には7個產卵してゐた。それで一頭で計34個產卵したことになる。6月17日其の內5個が孵化した。續いて殘り全部が20日迄に孵化し終つた。但し幼蛛の飼育は失敗した。（藤田衞）

**中支の蜾蠃**　舍弟藤田祝が昨年徐州大會戰參加後，7月19日警備の暇に中支那常州附近○○○の竹藪に於てクモを採集し筆者に送附して來た。其の中にザトウムシ4頭も交つてか居つた。該標品は封書で送附されて來たので可なり押し潰されてゐたが4頭とも明らかにヒトハリザトウムシ *Gagrella japonica* Roewer であることがわかつたのでこゝに報告して置く。眞正のクモに就ては植村利夫氏に發表して戴くつもりである。（藤田衞）

## 中支の蜘蛛

上記藤田祝君が中支に於て御採集になつた蜘蛛を拜見致しました。何分戰場の事とて蜘蛛の乾式壓搾標本といつたやうな形式で送られたものらしく，精細な觀察が困難でありましたが，私はこれをワカバグモ *Oxytate striatipes* L. Koch とエビグモ一種 *Philodromus* sp. と同定致しました。戰場の餘暇に蜘蛛を御採集になつた御熱心さに敬意を表しつゝ謹しんで同君の御凱旋を祝する次第であります。（植村利夫）